令和５年３月１０日
学校だより　特別号
練馬区立橋戸小学校
校長　青木　俊哉

橋　戸

日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力いただきますことに、感謝申し上げます。12月～1月にご協力いただきました今年度の教育活動に関するアンケートの結果がまとまりましたので、お知らせします。裏面に示した「学校評価アンケート」の集計結果は、教員・保護者・児童それぞれについて、項目別の割合を示しています。昨年度から評価項目を変更せずアンケートを実施したため、昨年度との比較と、三者の今年度の相互比較に基づく簡単な分析を、以下に示します。

【楽しい学校　☆】

・三者の肯定的評価(4 かなりそう思う・3そう思う)は8割超と、引き続き高い評価ではあるが、教員の多数が4→3と下がっており、保護者・児童の１割程が否定的評価(２そう思わない・1かなりそう思わない)であることから、「楽しい学校づくり」に向け何が必要か、改めて意見を求め、手だてを講じる必要がある。

【学力の向上　1～3】

・肯定的な評価が８～９割であり、概ね好評と言える。基礎・基本の定着については、保護者・教員の１割強が否定的評価のため、引き続き努力が必要と考える。一方、ICT に関する項目では、児童から極めて高い評価を得ており、継続が重要である。

【豊かな人間性の育成　4～6】

・「自分の考えをもち、伝える力」は、保護者・教員と児童の捉えに違いはあるが、本校児童にはまだ十分に身に付いていないと考えられる。まだ、校内研究で取り組んだ成果が出たとは言い難く、取組の継続が必要である。
・学校図書館の運営や読書活動の取組への評価は、保護者・教員に比べて児童の評価が極めて低い。感染対策上の配慮を行い、コロナ前に行っていた取組を復活させるなど、担当者も工夫して取り組み、成果を挙げているように捉えているが、児童が読んでいないと感じる原因を分析する必要がある。

【健康教育の推進　7・8】

・体力づくりについては、7～8割が肯定的評価を示しており、感染対策が続く中、概ね好評といえるが、徐々に緩和される感染対策や状況を受けて、思い切り身体を動かす機会の確保や運動遊びの推奨などに引き続き取り組む必要を感じる。
・規則正しい生活については、三者ともに否定的評価が増しており、コロナ禍の生活実態の把握と改善の促しが急務である。

【特別支援教育　9】

・肯定的な評価の割合は三者ともに下がっており、特別支援教育の必要性を改めて実感する項目となっている。不登校対策や年度途中で取組を始めた集団不適応児対策の改善を図るとともに、教員自身が、多様性を理解し一人一人の学びを保障することなどについて、学ぶ機会を確保する必要がある。

【いじめ・体罰への組織的対応　10・11】

・児童の評価は全項目に渡りやや下降傾向にあるが、この項目は顕著である。いじめや暴言のない学校・学級づくりを進め、児童が相談しやすい雰囲気を作るなど、具体的な対策を練る必要がある。

【保護者・地域との連携　12・13】

・保護者・教員の評価は上昇傾向にあるが、児童の評価は下降気味である。活動自体を行っていないわけではないので、活動を楽しめるよう工夫して取り組むとともに、紙とデジタルの両面から発信を進め、引き続き保護者・地域への周知に努める。
・小中一貫教育や保幼小の連携は、コロナ禍ではあるが一定の成果を挙げており、継続する。

【児童の実態　14～17】

・4 項目すべてにおいて、児童の肯定的な回答の割合が高く、自己肯定感の高さは変わらない。 三者とも肯定的評価が高いが、保護者・教員は3が多数であるのに対し、児童は4が最多であり、捉え方の違いは明確である。
・とくに、挨拶や返事、家庭学習の実態に関しては、保護者・教員と児童の回答には開きが大きい。